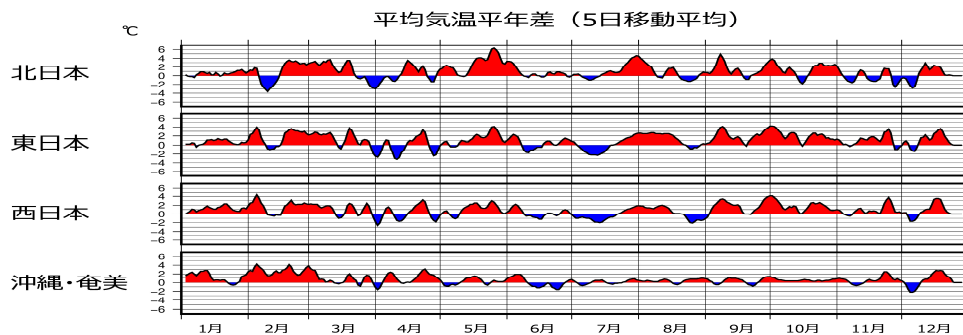


2019年（平成31年・令和元年）の日本の天候

2019年（平成31年・令和元年）の日本の天候の特徴：

○ 気温の高い状態が続き、年平均気温は全国的にかなり高かった

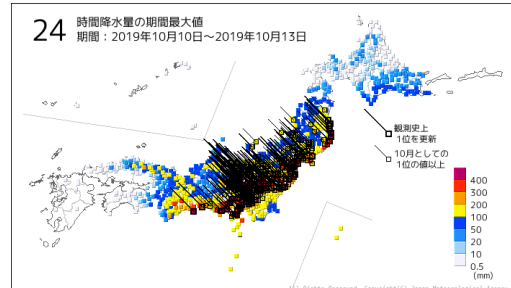
冬（2018年12月～2019年2月）は、東日本以西では暖冬となり、西日本日本海側では記録的な少雪となった。夏は、気温の低い時期もあったが、西日本を除き夏の平均気温は高かった。春と秋は、暖かい空気に覆われ、全国的に気温が高かった。季節平均気温は、冬の沖縄・奄美（平年差：+1.8℃）、秋の東日本（平年差：+1.6℃）と西日本（平年差：+1.4℃）で、1946年の統計開始以来最も高くなった。年を通して気温の高い状態が続いたため、年平均気温（2019年1月～12月）は全国的にかなり高くなった。



○ 台風第15号、台風第19号の接近・通過に伴い、北・東日本で記録的な暴風、大雨となった

9月上旬に台風第15号が関東地方に上陸し、千葉（千葉県）で57.5m/sの最大瞬間風速を観測するなど、千葉県を中心に記録的な暴風となった。10月中旬には、台風第19号が伊豆半島に上陸し、関東地方から東北地方を北上したため、箱根（神奈川県）で日降水量が歴代の全国1位となるなど、東日本から東北地方にかけての広い範囲で記録的な大雨となり、河川の氾濫が相次ぐなど大きな被害が発生した。

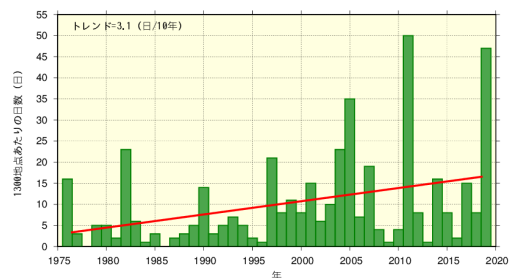
24時間降水量の期間最大値（10月10日～10月13日） 記号は観測史上または10月として1位



○ 夏から秋にかけて各地で記録的な大雨となった

夏から秋にかけては、10月の台風第19号による大雨の他にも、各地でしばしば大雨となった。7月は梅雨前線の影響により九州南部で、梅雨前線や台風第5号の影響により九州北部地方で、8月は前線の影響により九州北部地方で、10月は低気圧の通過により関東地方から東北地方で、それぞれ記録的な大雨となり、土砂災害や河川の氾濫など大きな被害が発生した。アメダスの日降水量400mm以上の年間日数は、2011年に次いで2番目に多くなった（統計開始は1976年）。

アメダス日降水量400mm以上の年間日数



本資料は、全国153地点の气象台等における12月22日までの観測データをもとに、速報としてまとめたものです。12月31日までの観測データによる資料は令和2年1月6日に発表します。

1 概況

2019年は、全国的に気温の高い状態が続き、低温は一時的だった。特に冬の沖縄・奄美、秋の東・西日本は、季節平均気温が1946年の統計開始以来、最も高かった。このため、年平均気温は全国的にかなり高くなった。また、夏から秋にかけては、前線や台風、低気圧の影響で記録的な大雨となったところがあった。9月は、台風第15号の影響により千葉県を中心に記録的な暴風となり、10月は、台風第19号の影響により、東日本から東北地方にかけて記録的な大雨となり広い範囲で河川の氾濫が相次ぐなど、大きな被害が発生した。全国のアメダスの日降水量400mm以上の年間日数は47日で、1976年の統計開始以来2011年に次いで2番目に多くなった¹。

季節別の特徴は以下のとおり。

【冬】

冬（2018年12月～2019年2月）の日本の天候は、北からの寒気の影響が弱く、東日本以西では冬の平均気温がかなり高かった。特に、沖縄・奄美では冬の平均気温の平年差が+1.8℃となり、冬の平均気温として最も高くなった（統計開始は1946/47年冬）。日本海側の冬の降雪量はかなり少なく、特に、西日本日本海側の冬の降雪量は平年比7%となり、冬の降雪量として最も少なくなった（統計開始は1961/62年冬）。

【春】

春（3月～5月）の日本の天候は、北・東・西日本では、期間を通して高気圧に覆われる日が多く、春の日照時間はかなり多かった。北・東・西日本日本海側と北日本太平洋側では、1946年の統計開始以来、春の日照時間として最も多かった（西日本日本海側は1位タイ）。また、春の降水量は北日本日本海側でかなり少なかった。全国的に、晴れて強い日射の影響を受けたことや、暖かい空気が流れ込みやすかったため、春の平均気温は北・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高かった。

【夏】

夏（6月～8月）の日本の天候は、梅雨前線の北上が平年より遅かったため、梅雨明けは平年より遅れた地方が多く、7月は東・西日本を中心に気温が低く、日照時間が少ない不順な天候となった。7月末から8月前半にかけては、東日本を中心に太平洋高気圧に覆われて晴れて厳しい暑さが続いた。夏の平均気温は、北・東日本と沖縄・奄美で高かった。西日本では、前線や台風の影響により、たびたび大雨となり、特に、九州南部では7月に、九州北部地方では7月と8月に、それぞれ記録的な大雨となり、土砂災害や河川の氾濫など大きな被害が発生した。また、西日本太平洋側では夏の降水量はかなり多かった。沖縄・奄美では、梅雨前線や台風、湿った空気の影響を受けやすかったため、夏の降水量はかなり多く、夏の日照時間はかなり少なかった。

【秋】

秋（9月～11月）の日本の天候は、全国的に暖かい高気圧に覆われやすかったため、気温が高かった。特に南から暖かい空気が流れ込みやすかった東・西日本の気温は、1946年の統計開始以来、秋の平均気温として最も高くなった。また、秋の日照時間は北・東・西日本で多かった。9月上旬は、台風第15号の影響で、東日本太平洋側を中心に大雨や記録的な暴風となり、千葉県などで大きな被害が発生した。10月中旬は、台風第19号の影響で、東日本から東北地方の広い範囲で記録的な大雨となり、河川の氾濫が相次ぐなど、大きな被害が発生した。10月下旬には、低気圧の影響で、関東甲信地方や東北地方で再び大雨となり、河川の氾濫や土砂崩れなど大きな被害が発生した。沖縄・奄美では、この秋に台風第13号、第17号、第18号、第20号、第27号が接近・通過し、大雨や大荒れとなった所があった。

¹ アメダスの地点数は一定でないため、概ね現在の地点数（1299地点）に相当する1300地点あたりに換算した値で比較した。

2 気温、降水量、日照時間の気候統計値

(1) 平均気温

年平均気温（2019年1月～12月）は、全国的にかなり高かった。秋田（秋田県）、御前崎（静岡県）、岐阜（岐阜県）等の8地点で年平均気温の平年差が最高値を上回っており、三島（静岡県）、名古屋（愛知県）、奈良（奈良県）等の10地点で最高値と同じ値となっている。

(2) 降水量

年降水量は、沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側で多かった。三宅島（東京都）と館山（千葉県）の2地点で年降水量の平年比が最大値を上回っている。一方、北日本日本海側でかなり少なく、東日本日本海側で少なかった。稚内と倶知安（以上、北海道）の2地点で年降水量の平年比が最小値を下回っている。北日本太平洋側と西日本は平年並だった。

(3) 日照時間

年間日照時間は、北日本、東日本日本海側でかなり多く、東日本太平洋側、西日本日本海側で多かった。根室（北海道）、秋田（秋田県）及び新庄（山形県）の3地点で年間日照時間の平年比が最大値を上回っている。一方、沖縄・奄美では少なかった。西日本太平洋側では平年並だった。

地域平均平年差（比）と階級（2019年）（12月22日までのデータによる）

	気温 平年差 ℃(階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)		気温 平年差 ℃(階級)	降水量 平年比 %(階級)	日照時間 平年比 %(階級)		
北日本	0.9 (+)*	93 (-)	111 (+)*	北海道	0.9 (+)*	85 (-)	110 (+)*		
		日 85 (-)*	日 112 (+)*			日 80 (-)*	日 110 (+)		
		太 100 (○)	太 110 (+)*			オ 83 (-)	オ 106 (+)		
東日本	1.0 (+)*	107 (○)	105 (+)	東北	1.0 (+)*	102 (○)	112 (+)*		
		日 87 (-)	日 111 (+)*			日 92 (-)	日 115 (+)*		
		太 113 (+)	太 103 (+)			太 109 (+)	太 111 (+)*		
西日本	0.9 (+)*	98 (○)	104 (+)	関東甲信	1.1 (+)*	116 (+)	104 (+)		
		日 95 (○)	日 105 (+)			北陸	0.9 (+)*	87 (-)	111 (+)*
		太 101 (○)	太 102 (○)			東海	1.1 (+)*	108 (○)	103 (+)
沖縄・奄美	0.7 (+)*	125 (+)*	93 (-)	近畿	0.9 (+)*	97 (○)	104 (+)		
						日 84 (-)*	日 105 (+)		
						太 102 (○)	太 103 (+)		
				中国	0.9 (+)*	83 (-)	105 (+)		
						陰 82 (-)*	陰 105 (+)		
						陽 84 (-)	陽 105 (+)		
				四国	0.8 (+)*	99 (○)	102 (○)		
				九州北部	0.9 (+)*	103 (○)	106 (+)		
				九州南部	0.7 (+)*	113 (+)	98 (-)		
				・奄美	本 0.8 (+)*	本 111 (+)	本 99 (○)		
				奄	0.6 (+)*	奄 123 (+)*	奄 94 (-)*		
				沖縄	0.8 (+)*	126 (+)*	93 (-)		

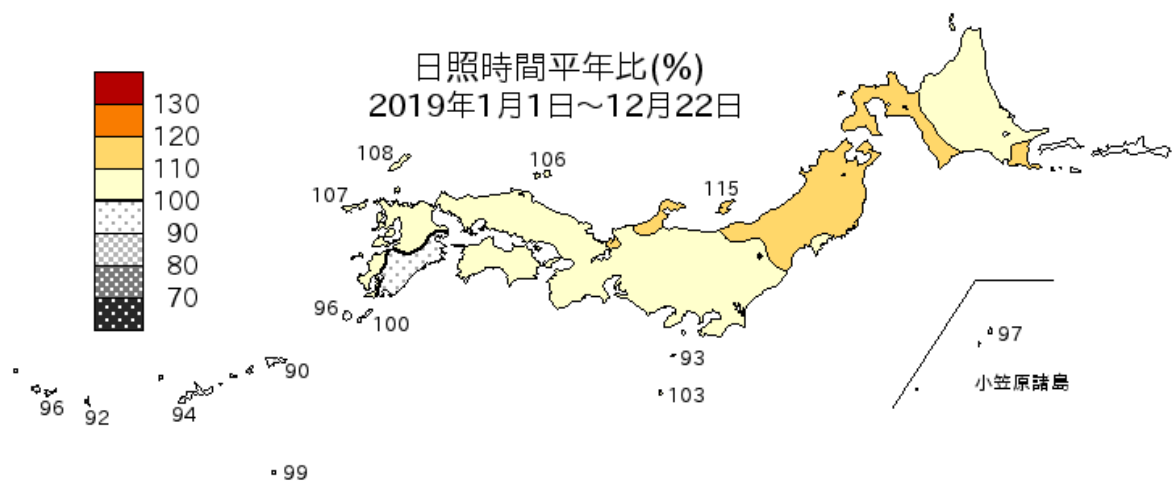
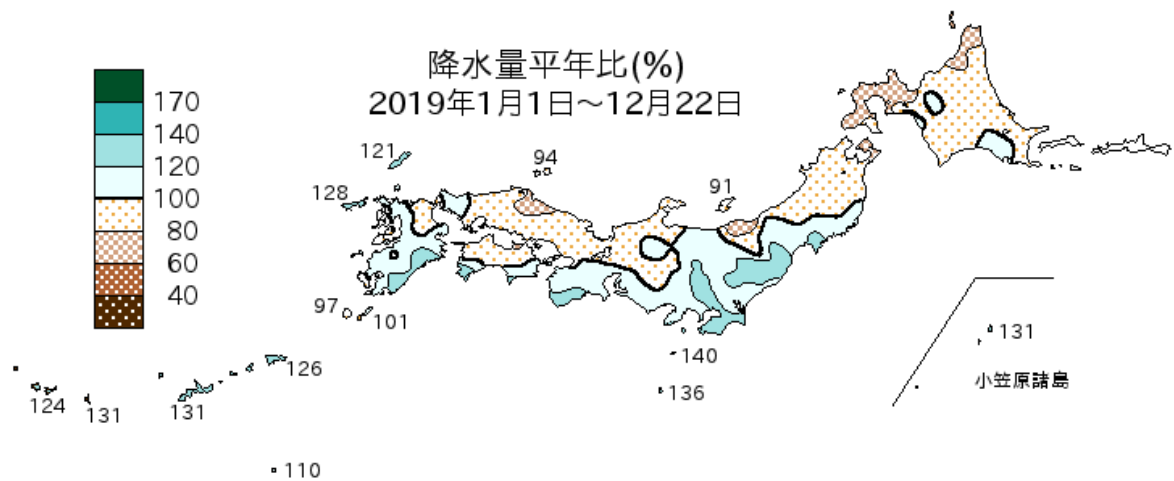
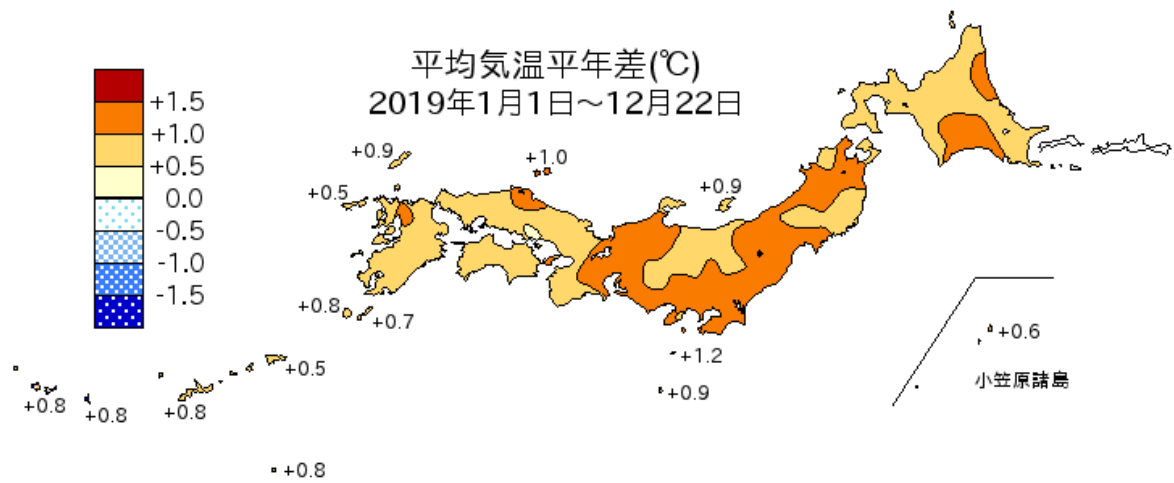
階級表示 ー:低い(少ない) 〇:平年並 +:高い(多い)
*はかなり低い(少ない)、かなり高い(多い)を表す

地域表示 日:日本海側 陰:山陰 本:本土(九州南部)
オ:オホーツク海側 陽:山陽 奄:奄美
太:太平洋側

(注)・基礎となるデータは全国の气象台等での観測値で、観測所数は153地点である。

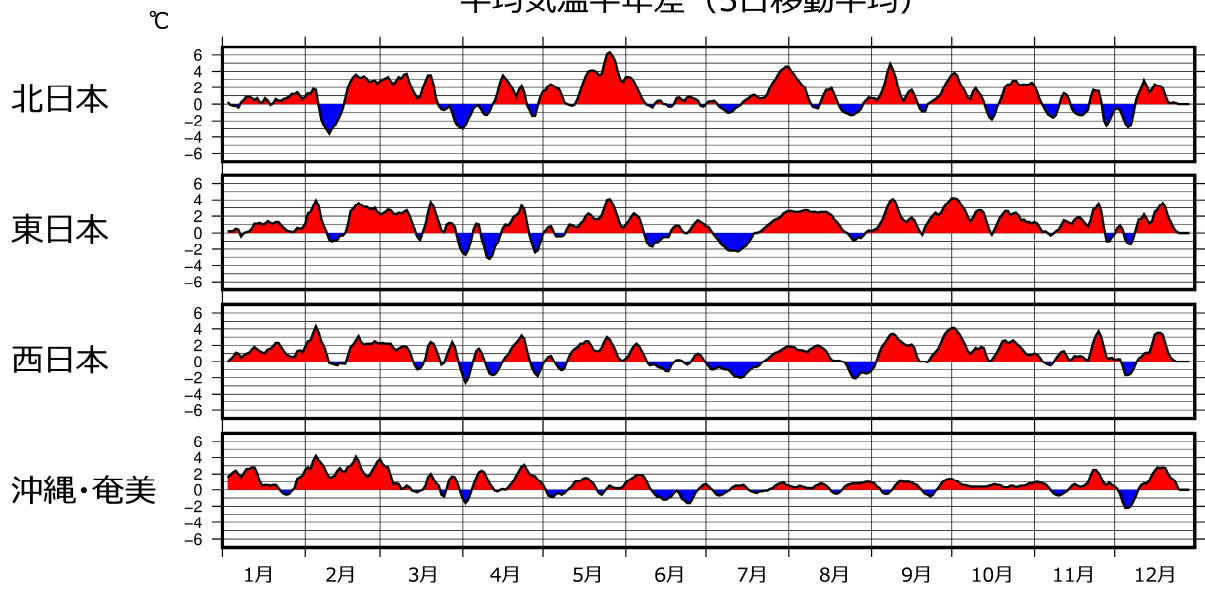
- ・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1981～2010年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。
- ・本文中の北・東・西日本の降水量・日照時間の特徴は、日本海側・太平洋側の階級に基づいて記述している。

平年差（比）図（2019年）（12月22日までのデータによる）

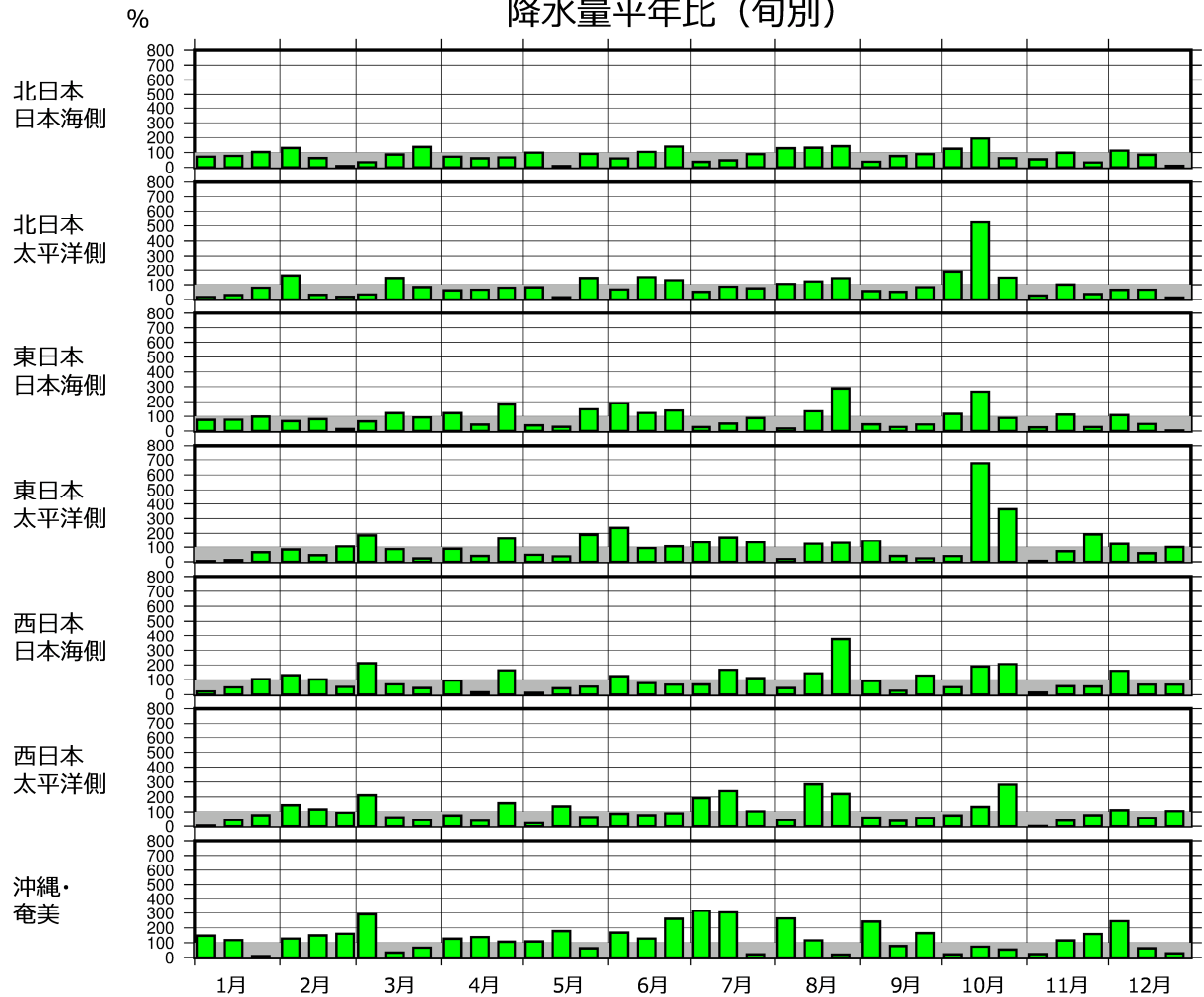


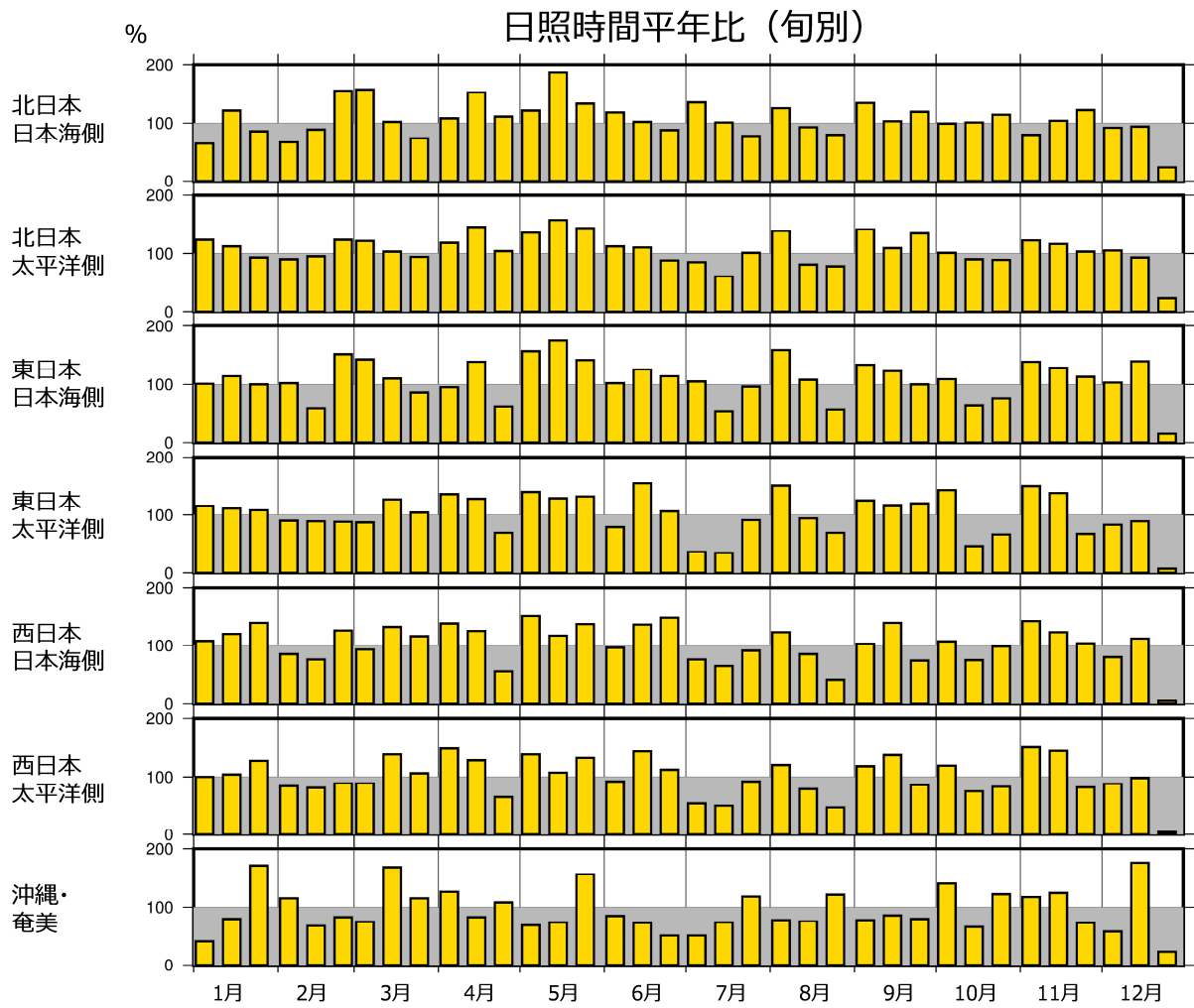
地域平均平年差（比）の経過（2019年）（12月22日までのデータによる）

平均気温平年差（5日移動平均）



降水量平年比（旬別）





観測史上1位の値（月、3か月、年別値）を更新した地点数と地域

- ・全国153地点（降雪の深さ、最深積雪は105地点）の気象台等の統計値の中で、観測史上1位となった地点数を記載した。
- ・値は1位を更新した地点数。タイ記録は含まない。タイ記録がある場合には「値タイ」として横に併記した。
- ・地域は観測史上1位（タイ記録を含む）となった地域を記載した。

	平均気温		降水量		日照時間		降雪の深さ	最深積雪
	高い方から	低い方から	多い方から	少ない方から	多い方から	少ない方から	多い方から	大きい方から
1月				6 北太	1			
2月	6、3タイ 沖奄			1				
冬	23、10タイ 沖奄							
3月	1							
4月				1	5			
5月	24、4タイ 北		1	3、1タイ 西日	51 北、東日、西日			
春	1、1タイ		1	2	25 北、東日、西日			
6月	1		2			1		
7月			2			2		
8月	1、3タイ		1					
夏			1			1		
9月	14、5タイ		1	3	2	1		
10月	43、7タイ 北、東		16	1	1			
11月				7、2タイ	10			
秋	52、18タイ 東、西		4	3				
年(速報) 2019年	8、10タイ		2	2	3			

平均気温の地域表示

北：北日本
東：東日本
西：西日本
沖奄：沖縄・奄美

降水量、日照時間、降雪の深さ、最深積雪の地域表示

北日：北日本日本海側
東日：東日本日本海側
西日：西日本日本海側
沖奄：沖縄・奄美
北太：北日本太平洋側
東太：東日本太平洋側
西太：西日本太平洋側
北：北日、北太ともに1位
東：東日、東太ともに1位
西：西日、西太ともに1位

各地方の梅雨入り・明けと梅雨の時期の降水量

地方名	梅雨入り(注1)	平 年	梅雨明け(注1)	平 年	梅雨の時期の降水量 平年比 (注2)
沖 縄	5月16日ごろ(+)	5月9日ごろ	7月10日ごろ(+)*	6月23日ごろ	138%(+)
奄 美	5月14日ごろ(+)	5月11日ごろ	7月13日ごろ(+)*	6月29日ごろ	154%(+)*
九州南部	5月31日ごろ(0)	5月31日ごろ	7月24日ごろ(+)	7月14日ごろ	140%(+)*
九州北部	6月26日ごろ(+)*	6月5日ごろ	7月25日ごろ(+)	7月19日ごろ	100%(0)
四 国	6月26日ごろ(+)*	6月5日ごろ	7月25日ごろ(+)	7月18日ごろ	132%(+)
中 国	6月26日ごろ(+)*	6月7日ごろ	7月25日ごろ(+)	7月21日ごろ	83%(0)
近 畿	6月27日ごろ(+)*	6月7日ごろ	7月24日ごろ(+)	7月21日ごろ	112%(+)
東 海	6月7日ごろ(0)	6月8日ごろ	7月24日ごろ(+)	7月21日ごろ	138%(+)*
関東甲信	6月7日ごろ(0)	6月8日ごろ	7月24日ごろ(+)	7月21日ごろ	134%(+)*
北 陸	6月7日ごろ(-)	6月12日ごろ	7月24日ごろ(0)	7月24日ごろ	89%(0)
東北南部	6月7日ごろ(-)	6月12日ごろ	7月25日ごろ(0)	7月25日ごろ	118%(+)
東北北部	6月15日ごろ(0)	6月14日ごろ	7月31日ごろ(0)	7月28日ごろ	70%(-)

(注1) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「〇〇日ごろ」と表現した。記号の意味は、(+)*: かなり遅い、(+): 遅い、(0): 平年並、(-): 早い、(-)*: かなり早い、の階級区分を表す。

(注2) 全国153の気象台・測候所等での観測値を用い、梅雨の時期(6~7月。沖縄と奄美は5~6月。)の地域平均降水量を平年比で示した。記号の意味は、(+)*: かなり多い、(+): 多い、(0): 平年並、(-): 少ない、(-)*: かなり少ない、の階級区分を表す。

階級区分は、1981~2010年における30年間の観測値をもとに、以下のように振り分けている。

	33%		33%
	10%		10%
梅雨入り・明け	遅い かなり遅い	平年並	早い かなり早い
降水量	少ない かなり少ない	平年並	多い かなり多い

3 季節別の天候経過

冬（2018年12月～2019年2月）：

- 東日本以西では冬の平均気温がかなり高く、特に沖縄・奄美は記録的な暖冬となった
- 北・東・西日本日本海側の冬の降雪量はかなり少なく、西日本日本海側は記録的な少雪となった
- 冬の降水量は、北・東日本で少なく、沖縄・奄美で多かった

北日本では冬型の気圧配置となりやすく、日本海側では曇りや雪の日が多く、太平洋側は晴れた日が多かった。また、発達した低気圧や湿った空気の影響を受けにくかったため、冬の降水量は北日本太平洋側でかなり少なく、北日本日本海側でも少なかった。北日本の冬の平均気温は平年並だったものの、2月8日9時には札幌付近の上空約1500mの気温が1957年の統計開始以来最も低い -24.4°C となるなど、2月上旬は非常に強い寒気が流れ込み、気温が平年を大幅に下回った時期もあった。

東・西日本では、北からの寒気の影響は弱く、冬の平均気温はかなり高かった。冬型の気圧配置は長続きせず、低気圧や前線の影響を受けやすかったため、東日本太平洋側と西日本では冬の日照時間が少なかった。ただし、東日本では、低気圧や前線が南海上を離れて通過しやすかったため湿った空気の影響を受けにくく、冬の降水量は少なかった。特に東日本日本海側では、寒気の影響が弱かったため、冬の降水量はかなり少なかった。

沖縄・奄美でも、北からの寒気の影響は弱く、冬の平均気温の平年差が $+1.8^{\circ}\text{C}$ となり、冬の平均気温として最も高くなった（統計開始は1946/47年冬）。

日本海側の冬の降雪量は、北日本では、発達した低気圧や湿った空気の影響が弱く広範囲でまとまった降雪量となることが少なかったため、平野部を中心に冬の降雪量はかなり少なかった。東・西日本では寒気の影響が弱かったため、日本海側の降雪量はかなり少なかった。特に、西日本日本海側の冬の降雪量は平年比7%となり、冬の降雪量として最も少なくなった（統計開始は1961/62年冬）。

平均気温：東・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、北日本では平年並だった。

降水量：北日本太平洋側と東日本日本海側でかなり少なく、北日本日本海側と東日本太平洋側で少なかった。一方、沖縄・奄美は多かった。西日本では平年並だった。

日照時間：西日本太平洋側でかなり少なく、東日本太平洋側と西日本日本海側で少なかった。一方、北日本太平洋側は多かった。北・東日本日本海側と沖縄・奄美では平年並だった。

春（3月～5月）：

- 春の日照時間は、北・東・西日本でかなり多く、春の降水量は北・西日本で少なかった
- 春の気温は、北・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、東日本で高かった
- 沖縄・奄美では、春の降水量が多かった

北日本から西日本にかけては、天気は数日の周期で変わったが、低気圧は日本の北と日本の南海上を通りやすく、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。このため、春の日照時間はかなり多く、北・東・西日本日本海側と北日本太平洋側では、それぞれ平年比127%、123%、118%、124%と1946年の統計開始以来、春の日照時間として最も多かった（西日本日本海側は1位タイ）。春の降水量は、北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と西日本では少なかった。東日本は、低気圧や前線の影響を受けやすい時期があり、春の降水量は平年並だった。

また、日本の北の低気圧に向かって暖かい空気が入りやすかったことや、高気圧に覆われて晴れて強い日射の影響で、春の気温は北・西日本でかなり高く、東日本で高かった。特に5月下旬は、日本の東と南で高気圧の勢力が強く、沿海州からサハリン付近の低気圧に向かって暖かい空気が入りやすかったため、北・東日本を中心に記録的な高温となった地点が多かった。

沖縄・奄美では、期間を通して前線や暖かく湿った空気の影響を受けやすかったため、春の降水量は多く、春の気温はかなり高かった。

平均気温：北・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、東日本では高かった。

降水量：北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と西日本で少なかった。一方、沖縄・奄美では多く、東日本では平年並だった。

日照時間：北・東・西日本でかなり多く、沖縄・奄美では平年並だった。

夏（6月～8月）：

○ 西日本を中心にたびたび大雨となり、東日本太平洋側と西日本は、降水量が多く、日照時間は少なかった

○ 北・東日本と沖縄・奄美は、気温が高かった

○ 沖縄・奄美は、降水量がかなり多く、日照時間はかなり少なかった

6月は、太平洋高気圧の北への張り出しが弱く、日本付近で偏西風が南に蛇行したため、梅雨前線は日本の南海上に停滞しやすかった。このため、沖縄・奄美では前線や湿った空気の影響を受けやすく、日照時間はかなり少なかった一方、前線の影響を受けにくかった東・西日本の日照時間は多かった。北日本は、気圧の谷がたびたび通過したため、天気は数日の周期で変わった。

7月は、梅雨前線が本州南岸に停滞する日が多く、北日本から西日本にかけては前線や湿った空気の影響を受けやすく曇りや雨の日が多かった。特に6月末から7月はじめは、梅雨前線の活動が活発になった影響で、九州南部を中心に大雨となった。また、下旬前半にかけて太平洋高気圧の本州付近への張り出しが弱かったため、梅雨明けは平年より遅れた地方が多く、九州北部地方を中心に大雨となる日があった。一方、沖縄・奄美は台風や湿った空気の影響でこの時期としては晴れの日が少なかった。

8月は、北日本から西日本にかけては、前半を中心に太平洋高気圧に覆われて晴れて厳しい暑さの日が続いた。その後は台風や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、下旬は前線の影響で曇りや雨の日が多かった。特に28日は、対馬海峡付近の前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだため、九州北部地方では記録的な大雨となり、佐賀県、福岡県、長崎県に大雨特別警報が発表された。沖縄・奄美では、上旬と中旬は台風や湿った空気の影響を受けやすかったが、下旬は高気圧に概ね覆われて晴れた日が多かった。

夏の平均気温は、暖かい空気に覆われる時期が多かった北日本と沖縄・奄美と、7月末から8月前半にかけて晴れて厳しい暑さとなった東日本では高かった。西日本は、夏の平均気温は平年並だったが、7月の気温は前線が南岸に停滞して冷たい空気の影響を受けやすかったことや、梅雨明けが遅れた影響で低かった。一方、8月は、上旬は高気圧に覆われて晴れて気温がかなり高くなったが、下旬は低気圧や前線の影響で不順な天候となり、気温はかなり低くなるなど気温の変動が大きかった。

平均気温：北・東日本と沖縄・奄美で高く、西日本では平年並だった。

降水量：西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側と西日本日本海側では多かった。北日本と東日本日本海側では平年並だった。

日照時間：沖縄・奄美でかなり少なく、東日本太平洋側と西日本では少なかった。北日本と東

日本日本海側では平年並だった。

秋（9月～11月）：

- 全国的に気温が高く、東・西日本ではかなり高かった
- 北・東・西日本で日照時間が多かった
- 台風等の影響で各地で大雨や大荒れとなり、北・東日本太平洋側と沖縄・奄美の降水量は多かった

秋の平均気温は、暖かい高気圧に覆われやすかったため全国的に高く、特に南から暖かい空気が流れ込みやすかった東・西日本ではかなり高くなった。平均気温平年差は、東日本で+1.6℃、西日本で+1.4℃となり、それぞれ1946年以降で秋としての1位の記録となった。地点で見ると、全国の气象台等153地点のうち70地点で高い方からの1位の値を記録した(タイを含む)。また、大陸から進んできた高気圧に覆われやすかったため、北・東・西日本で日照時間が多く、特に北・西日本太平洋側ではかなり多かった。

この秋に発生した台風は16個だった。9月8日から9日にかけては、強い勢力で関東地方に上陸した台風第15号の影響で、千葉（千葉県）で57.5m/sの最大瞬間風速を観測するなど、東日本太平洋側を中心に大雨や記録的な暴風を観測するなど大荒れとなり、千葉県などで甚大な災害が発生した。10月12日には台風第19号が大型で強い勢力で伊豆半島に上陸し、関東地方から東北地方を通過したため、10月11日から13日にかけて東日本から東北地方の広い範囲で大雨や大荒れとなった。箱根（神奈川県）では10月12日の日降水量が歴代の全国で1位となる922.5mmを観測するなど、多くの地点で記録的な大雨となり、13都県で大雨特別警報の発表に至った。この影響で河川の氾濫が相次ぐなど、大きな被害が発生した。10月25日には、東日本の太平洋沿岸を進む低気圧に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込んで、関東甲信地方や東北地方で大雨となり、河川の氾濫や土砂崩れなどの被害が発生した。これらの影響で、北・東日本太平洋側では降水量が多かった。

沖縄・奄美では、この秋には台風第13号、第17号、第18号、第20号、第27号が接近・通過し、それぞれ大雨や大荒れとなった所があった。また、9月や11月を中心に前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があり、降水量が多くなった。

平均気温：東・西日本でかなり高く、北日本と沖縄・奄美で高かった。

降水量：北・東日本太平洋側と沖縄・奄美で多く、一方、北・東日本日本海側では少なく、西日本では平年並だった。

日照時間：北・西日本太平洋側でかなり多く、北・西日本日本海側と東日本で多かった。沖縄・奄美では平年並だった。

4 全国気候表 2019年

(12月22日までのデータによる)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)
札幌	10.2	(+1.0)	801.0	(75)	127	1962.1	(114)
稚内	7.9	(+0.8)	722.5	(70)	127	1567.2	(106)
北見枝幸	7.3	(+1.0)	922.0	(82)	153	1592.8	(104)
旭川	8.1	(+0.8)	974.5	(96)	152	1642.1	(104)
留萌	8.9	(+0.8)	992.0	(91)	142	1649.7	(108)
羽幌	8.8	(+0.8)	973.0	(78)	155	1623.7	(103)
岩見沢	8.8	(+0.8)	1160.0	(103)	145	1774.1	(105)
倶知安	8.1	(+0.8)	991.5	(70)	157	1652.1	(114)
小樽	9.7	(+0.8)	860.5	(72)	149	1788.0	(111)
寿都	9.7	(+0.8)	844.5	(74)	137	1662.6	(117)
網走	7.8	(+0.9)	676.5	(88)	93	1977.7	(107)
紋別	7.7	(+1.0)	725.0	(92)	114	1767.1	(104)
雄武	7.1	(+1.1)	681.0	(80)	114	1764.6	(107)
釧路	7.5	(+1.0)	1094.0	(107)	79	2090.3	(109)
根室	7.5	(+1.0)	893.0	(89)	75	2088.1	(116)
帯広	8.3	(+1.2)	773.0	(88)	77	2104.3	(106)
広尾	8.2	(+1.1)	1501.0	(90)	110	2011.7	(113)
室蘭	9.7	(+0.8)	896.5	(77)	111	1866.9	(110)
苫小牧	8.6	(+0.7)	1209.5	(102)	116	1922.1	(115)
浦河	8.9	(+0.7)	1061.0	(100)	95	2030.2	(113)
函館	10.4	(+1.0)	917.5	(82)	110	1911.8	(111)
江差	11.2	(+0.8)	878.0	(75)	128	1651.3	(114)
青森	11.8	(+1.1)	1030.0	(82)	135	1857.5	(117)
深浦	11.9	(+0.9)	1155.5	(81)	123	1702.5	(118)
むつ	10.7	(+0.9)	1032.5	(79)	121	1800.3	(113)
八戸	11.5	(+1.0)	912.5	(90)	79	2017.2	(110)
秋田	13.2	(+1.2)	1510.0	(92)	145	1808.0	(120)
盛岡	11.6	(+1.0)	995.5	(80)	101	1848.7	(112)
大船渡	12.6	(+1.0)	1702.0	(112)	92	1880.6	(110)
宮古	11.7	(+0.9)	1449.5	(111)	82	2057.9	(112)
仙台	13.9	(+1.2)	1364.0	(110)	93	2006.5	(114)
石巻	12.8	(+1.0)	1340.5	(127)	86	2064.0	(109)
山形	13.1	(+1.1)	1243.5	(109)	125	1764.9	(111)
新庄	11.9	(+0.9)	1767.0	(98)	174	1533.6	(117)
酒田	14.1	(+1.1)	1614.0	(88)	166	1764.2	(115)
福島	14.3	(+1.0)	1452.5	(126)	106	1882.8	(111)
若松	13.1	(+1.1)	1127.0	(95)	143	1735.3	(109)
白河	12.8	(+1.0)	1983.5	(141)	116	1838.1	(106)
小名浜	14.8	(+1.1)	1657.0	(118)	104	2098.6	(106)
水戸	15.2	(+1.3)	1374.0	(102)	99	2040.0	(109)
館野(つくば)	15.3	(+1.2)	1402.5	(110)	103	1948.4	(105)
宇都宮	15.2	(+1.1)	1854.5	(125)	117	1897.7	(102)
日光	8.1	(+0.9)	2559.5	(118)	131	1729.2	(101)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)
前橋	16.0	(+1.1)	1439.0	(116)	101	2137.0	(104)
熊谷	16.4	(+1.1)	1452.0	(114)	97	2083.7	(105)
秩父	14.4	(+1.0)	1857.5	(140)	95	1938.8	(106)
東京	16.7	(+1.0)	1859.5	(123)	110	1865.2	(102)
大島	17.4	(+1.1)	3856.5	(138)	138	1740.2	(99)
三宅島	19.1	(+1.2)	4084.0	(140)	171	1555.1	(93)
八丈島	18.9	(+0.9)	4283.5	(136)	172	1416.0	(103)
父島	23.9	(+0.6)	1658.0	(131)	121	1947.2	(97)
千葉	17.1	(+1.1)	1687.0	(123)	116	1872.1	(101)
銚子	16.9	(+1.3)	2135.5	(130)	121	2025.7	(106)
館山	17.2	(+1.1)	2491.5	(141)	121	1976.8	(105)
勝浦	16.9	(+1.0)	2340.0	(120)	125	1951.3	(104)
横浜	17.1	(+1.0)	1927.5	(115)	110	1979.8	(104)
長野	13.2	(+0.9)	978.0	(107)	107	1944.2	(102)
松本	13.1	(+1.0)	1011.5	(99)	91	2128.1	(104)
諏訪	12.3	(+0.9)	1248.0	(98)	105	2117.2	(102)
軽井沢	9.3	(+0.8)	1515.0	(123)	110	1979.3	(105)
飯田	13.9	(+0.8)	1447.5	(91)	115	2040.7	(104)
甲府	16.2	(+1.2)	1160.0	(103)	93	2164.7	(102)
河口湖	12.0	(+1.1)	1877.5	(121)	110	1906.3	(100)
静岡	18.1	(+1.3)	2362.0	(102)	114	2080.0	(102)
浜松	17.8	(+1.1)	2127.0	(118)	113	2195.2	(104)
御前崎	17.9	(+1.3)	2435.0	(119)	121	2185.6	(101)
三島	17.4	(+1.2)	2100.0	(113)	119	1959.3	(103)
石廊崎	17.9	(+1.1)	2500.0	(142)	127	2092.1	(101)
網代	17.1	(+0.8)	2059.5	(105)	119	1752.9	(100)
名古屋	17.3	(+1.2)	1533.0	(101)	106	2156.1	(106)
伊良湖	17.3	(+1.0)	1836.5	(116)	103	2182.4	(101)
岐阜	17.3	(+1.2)	1763.0	(97)	105	2141.0	(105)
高山	12.5	(+1.1)	1750.5	(105)	132	1668.7	(104)
津	17.2	(+1.0)	1606.0	(102)	106	2059.6	(101)
上野	15.6	(+1.1)	1483.5	(110)	104	1773.5	(103)
尾鷲	17.3	(+0.9)	4620.5	(121)	129	1937.9	(102)
四日市	16.2	(+1.1)	1907.0	(111)	103	1927.4	(101)
新潟	14.9	(+1.0)	1319.5	(75)	147	1809.8	(112)
相川	15.1	(+0.9)	1327.0	(91)	143	1850.0	(115)
高田	14.7	(+0.8)	2734.5	(104)	184	1692.8	(108)
富山	15.5	(+1.1)	2045.5	(92)	160	1712.8	(108)
伏木	15.2	(+1.0)	1750.0	(81)	153	1776.7	(112)
金沢	16.0	(+1.1)	1969.0	(85)	153	1869.4	(113)
輪島	14.6	(+0.8)	1713.5	(84)	145	1775.1	(114)

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)
福井	15.9	(+1.1)	1797.5	(83)	167	1744.4	(109)
	敦賀	16.6	(+1.0)	1736.0	(85)	148	1708.4
彦根	16.1	(+1.1)	1366.5	(89)	122	1927.3	(107)
京都	17.2	(+1.0)	1390.0	(94)	108	1783.3	(103)
	舞鶴	15.7	(+0.9)	1505.0	(84)	154	1575.0
大阪	17.8	(+0.6)	1189.5	(94)	89	2056.5	(105)
神戸	17.9	(+0.9)	1153.5	(96)	89	2104.4	(104)
	豊岡	15.6	(+1.0)	1577.5	(81)	158	1528.2
姫路	16.4	(+0.9)	1049.5	(88)	85	2020.3	(102)
	洲本	16.8	(+1.1)	1345.0	(96)	88	2050.0
奈良	16.5	(+1.3)	1452.5	(112)	108	1850.1	(104)
和歌山	17.7	(+0.8)	1594.5	(122)	85	2139.4	(105)
	潮岬	18.1	(+0.5)	3032.0	(121)	122	2194.6
岡山	16.8	(+0.3)	895.5	(82)	75	2033.9	(102)
	津山	14.8	(+0.8)	1135.5	(81)	96	1839.8
広島	17.5	(+0.9)	1348.5	(88)	77	2104.8	(105)
	呉	17.5	(+1.0)	1183.5	(86)	81	2130.9
福山	16.5	(+0.8)	926.5	(84)	82	2079.5	(101)
松江	16.2	(+1.0)	1445.0	(83)	144	1760.9	(105)
	西郷	15.5	(+1.0)	1644.5	(94)	125	1830.7
浜田	16.6	(+0.8)	1315.5	(80)	118	1868.0	(108)
鳥取	16.2	(+1.0)	1489.5	(80)	144	1702.8	(104)
	米子	16.4	(+1.1)	1297.0	(75)	145	1767.1
境	16.4	(+1.0)	1442.5	(78)	139	1745.7	(103)
徳島	17.7	(+0.9)	1516.0	(105)	92	2100.0	(103)
高松	17.6	(+1.0)	901.5	(84)	88	2077.8	(103)
	多度津	17.4	(+0.9)	826.5	(78)	84	2115.3
松山	17.7	(+1.0)	1110.0	(85)	96	2019.9	(102)
	宇和島	17.8	(+0.7)	1557.5	(95)	110	1986.6
高知	18.0	(+0.8)	2491.5	(98)	113	2093.4	(100)
	宿毛	18.1	(+0.9)	2601.0	(133)	113	2088.8
清水	19.1	(+0.7)	2633.5	(107)	119	2127.0	(99)
	室戸岬	17.5	(+0.6)	2889.5	(125)	109	2176.9
山口	16.6	(+1.0)	1941.0	(104)	97	1931.8	(107)
	下関	17.9	(+0.9)	1577.0	(95)	98	1958.2
萩	16.7	(+1.0)	1739.5	(106)	120	1849.8	(109)
福岡	18.2	(+1.0)	1584.0	(99)	107	1966.7	(107)
	塚	16.8	(+0.8)	1603.0	(92)	112	1865.5

地点名	平均気温(平年差)		降水量(平年比)		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)
大分	17.7	(+1.0)	1704.0	(104)	104	1945.1	(99)
日田	16.7	(+0.9)	1722.0	(96)	110	1796.2	(102)
長崎	18.1	(+0.6)	1743.5	(95)	110	1933.9	(106)
厳原	16.9	(+0.9)	2697.0	(121)	92	1961.1	(108)
平戸	17.1	(+0.7)	2403.5	(115)	112	1879.9	(107)
佐世保	18.0	(+0.7)	1828.0	(95)	112	2029.9	(108)
雲仙岳	13.7	(+0.6)	2545.5	(89)	127	1525.5	(108)
福江	17.6	(+0.5)	2966.0	(128)	112	1851.9	(107)
佐賀	18.0	(+1.2)	2052.5	(111)	103	2016.6	(105)
熊本	18.0	(+0.8)	2002.5	(102)	110	2038.9	(104)
人吉	16.7	(+0.9)	2351.5	(99)	115	1756.8	(98)
牛深	19.0	(+0.7)	1849.5	(95)	112	2064.9	(108)
宮崎	18.6	(+0.9)	3021.0	(121)	126	2002.7	(97)
延岡	17.7	(+0.8)	3089.5	(135)	125	2018.5	(97)
都城	17.7	(+0.9)	2986.0	(122)	133	1816.3	(96)
油津	19.1	(+0.7)	3161.5	(122)	126	1829.6	(96)
鹿児島	19.7	(+0.9)	2423.0	(108)	122	1936.1	(102)
阿久根	18.2	(+0.7)	2397.5	(118)	115	1991.2	(104)
枕崎	19.1	(+0.8)	1961.0	(91)	110	1933.4	(102)
屋久島	20.4	(+0.8)	4263.0	(97)	161	1443.2	(96)
種子島	20.5	(+0.7)	2336.5	(101)	153	1772.4	(100)
名瀬	22.3	(+0.5)	3496.0	(126)	176	1213.1	(90)
沖永良部	23.3	(+0.8)	2186.5	(121)	135	1768.7	(96)
那覇	24.0	(+0.8)	2616.0	(131)	133	1637.6	(94)
名護	23.6	(+0.8)	2579.0	(130)	151	1622.4	(94)
久米島	23.9	(+0.8)	2747.0	(133)	149	1585.7	(92)
宮古島	24.5	(+0.8)	2589.5	(131)	145	1594.4	(92)
石垣島	25.2	(+0.8)	2553.0	(124)	141	1747.7	(96)
西表島	24.7	(+0.9)	2412.0	(107)	147	1612.0	(94)
与那国島	24.7	(+0.7)	2598.5	(113)	153	1446.6	(93)
南大東島	24.2	(+0.8)	1713.0	(110)	110	2059.3	(99)

(注) 1. これらは12月22日までの観測値を使った集計結果である。

2. 平年差(比)は同期間の日別平年値を平均・合計したものに対する差(比)である。

5 平年差（比）が観測史上1位を上回っている地点

(12月22日までのデータによる)

過去の平年差（比）と同値は「=」で表す。

年平均気温の平年差が最高値を上回っている地点

地点名	2019年(12月22日まで)			これまでの最高 平年差(西暦年) ℃	開始年
	平年差 ℃	値 ℃	平年値* ℃		
秋田	+1.2	13.2	12.0	+1.0 (2015)	1882
酒田	+1.1	14.1	13.0	+1.0 (1990)	1937
三宅島	+1.2	19.1	17.9	+1.1 (2018)	1942
静岡	+1.3	18.1	16.8	+1.2 (2018)	1940
浜松	+1.1=	17.8	16.7	+1.1 (2016)	1882
御前崎	+1.3	17.9	16.6	+1.1 (2004)	1932
三島	+1.2=	17.4	16.2	+1.2 (2018)	1930
石廊崎	+1.1	17.9	16.8	+1.0 (2018)	1939
名古屋	+1.2=	17.3	16.1	+1.2 (2016)	1890
岐阜	+1.2	17.3	16.1	+1.1 (2018)	1883
相川	+0.9	15.1	14.2	+0.8 (2004)	1911
富山	+1.1=	15.5	14.4	+1.1 (2016)	1939
伏木	+1.0=	15.2	14.2	+1.0 (2016)	1883
福井	+1.1=	15.9	14.8	+1.1 (2016)	1897
彦根	+1.1=	16.1	15.0	+1.1 (2016)	1893
奈良	+1.3=	16.5	15.2	+1.3 (2018)	1953
西郷	+1.0=	15.5	14.5	+1.0 (1998)	1939
米子	+1.1=	16.4	15.3	+1.1 (2016)	1939

年降水量の平年比が最大値を上回っている地点

地点名	2019年(12月22日まで)			これまでの最大 平年比(西暦年) %	開始年
	平年比 %	値 mm	平年値* mm		
三宅島	140	4084.0	2915.2	139 (1979)	1942
館山	141	2491.5	1768.9	134 (1989)	1968

年降水量の平年比が最小値を下回っている地点

地点名	2019年(12月22日まで)			これまでの最小 平年比(西暦年) %	開始年
	平年比 %	値 mm	平年値* mm		
稚内	70	722.5	1033.4	73 (1986)	1938
倶知安	70	991.5	1424.0	73 (1984)	1944

年間日照時間の平年比が最大値を上回っている地点

地点名	2019年(12月22日まで)			これまでの最大 平年比(西暦年) %	開始年
	平年比 %	値 h	平年値* h		
根 室	116	2088.1	1804.8	113 (1970)	1890
秋 田	120	1808.0	1512.2	119 (1975)	1899
新 庄	117	1533.6	1316.3	116 (1984)	1957

(注) これらは12月22日までの観測値を使った集計結果であるので、年末までのデータを加えた確定値では変わる可能性がある。

平年値(*)は日別平年値を平均または合計したものである。

平年値とは1981～2010年の30年間の値を平均したものである。

○本資料に関連した各地点の所在地等の情報は、気象庁ホームページに掲載しています。

ホーム > 各種データ・資料 > 過去の気象データ検索 > 利用される方へ > 地上気象観測地点一覧

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/chiten/sindex2.html>



(注意)

当資料に掲載されている天候の特徴や統計値は、現時点で得られている資料を取りまとめた速報です。

また、最新のデータを追加した上で、毎月15日頃に気象庁ホームページの「日本の天候の特徴と見通し」で詳しく解説しています。

<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/longfcst/>

